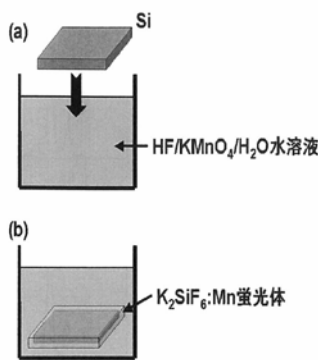
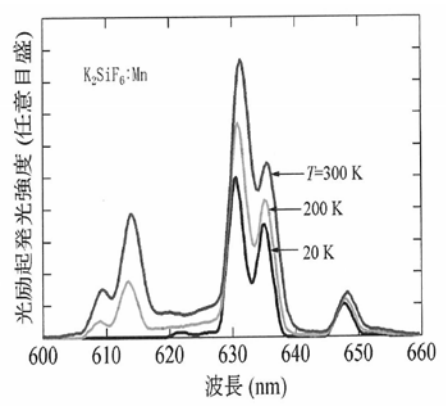
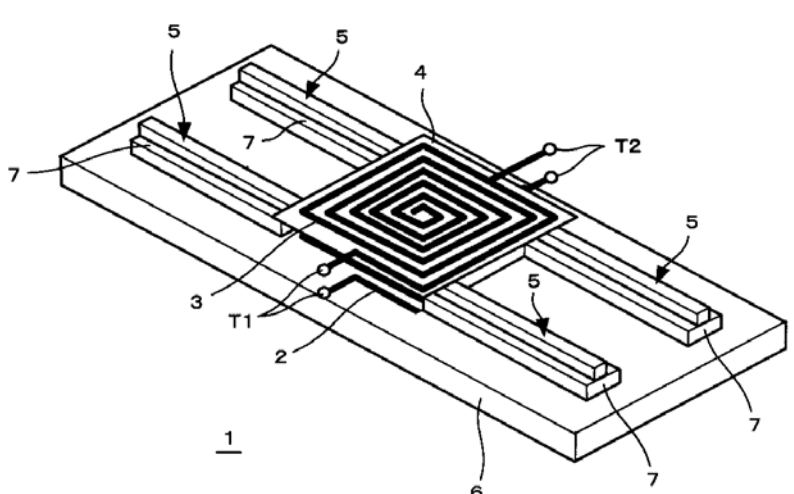


発明の名称	蛍光体の製造方法(特許第 5545665 号)	
学内発明者	安達 定雄(元理工学府) 他	
技術分野	電子材料	IP19-124JP
発明の概要	<p>発光強度が強く、温度変化にも影響を受けにくい、といった優れた効果を有する蛍光体を室温環境において簡便に製造する方法を提供する。本発明の蛍光体は、A_2BF_6 (但し、AはK、Na、Rb又はCs、BはSi、Ge、Sn、Ti又はZr、KとSi、KとGe、KとTiの組合わせを除く。)母体結晶の一部に、遷移金属が置換されたことを特徴とする。本発明の蛍光体の製造方法は、HF水溶液に$AMnO_4$ (AはK、Na、Rb又はCs)を加えて調製した混合液に、B含有材料(BはSi、Ge、Sn、Ti又はZr、酸化物材料を除く。)を浸漬し、材料の表層にA_2BF_6母体結晶の一部にMnを置換した構成をとる蛍光体を析出させるか、或いはB含有酸化物材料を浸漬し、混合液と材料とを反応させ、A_2BF_6母体結晶の一部にMnが置換された構成をとる結晶体からなる蛍光体を生成させることを特徴とする。</p>	
説明図	<p>製造方法</p>  <p>発光特性</p> 	<p>左図は製造方法で、HF水溶液に酸化剤である$AMnO_4$ (AはK、Na、Rb又はCs)を加えて調製した混合液に、Siを浸漬することにより、材料の表層に$K_2SiF_6:Mn$ 蛍光体が生成される。右図は本蛍光体の発光特性を示す。</p>
ポイント	<p>発光強度が強く、温度変化にも影響を受けにくい、という優れた効果を有する蛍光体を、従来の製造方法に比べ極めて低い温度環境において簡便に生成する方法を提供する。</p>	

発明の名称	可変インダクタ(特許第 4288353 号)	
学内発明者	小林 春夫(理工学府) 他	
技術分野	インダクタンスを変化させることが可能な可変インダクタに係わる	IP16-074
発明の概要	<p>インダクタの形状を変えことなく、簡単な構造でインダクタンス値を変化させることが可能である可変インダクタを提供する。</p>	
説明図		<p>概略構成斜視図</p> <ul style="list-style-type: none"> 1: 可変インダクタ 2, 3: コイル 4: 枠 5: アクチュエータ 6: 基板 7: 支持台 T1, T1: 端子
ポイント	<p>複数の薄膜コイルを備え、この複数の薄膜コイルのうち、少なくとも1つの薄膜コイルに対してアクチュエータが設けられ、このアクチュエータが、熱膨張によって曲がることにより薄膜コイルを移動させる構成により、可変インダクタンスを提供する。</p>	